

遠賀町農業委員会通信

第1号
平成24年10月1日発行
＜発行責任者＞
遠賀町農業委員会
会長 岩崎 公彦

会長あいさつ

遠賀町農業委員会

会長 岩崎 公彦



平成二十三年七月より十三名の新しい農業委員が選出され、早一年が経過いたしました。これまでの間、委員全員で農家のお役に立てるよう鋭意努力して参りましたが、これからは引き続き、農業の活性化のために尽力して参る所存です。

さて、農業を取り巻く情勢はなお一層厳しくなっております。担い手不足や従事者の高齢化により、農地の荒廃は進む一方で、それに乘じて、農地転用が加速化することも懸念され、農業委員会といたしましても、担い手対策や農地の集積などを推進し、農地の適正な保全に努めていききたいと存じます。

任期中、農家の皆さんには何かとご面倒おかけすることもありますが、農業振興のため、ご理解をいただき、なにとぞご協力をお願い致します。

農業委員紹介

※敬称は略します。()内は担当地区

〈後列〉

右から

(島津・若松)

池田 光一

(尾崎)

大場 泉

(鬼津)

三原 高志

(広渡・遠賀川・旧停・松の本)

門司 好弘

(上別府)

岩崎 公彦

矢野 卓雄

(木守)

(老良)

高崎 昭子

(虫生津)

(木守)

(浅木)

一田 干城

(上別府)

(浅木)

(浅木)

瓜生 正代

古野 修

(浅木)

(浅木)

村田 謙午

石松 守

(浅木)

(浅木)

瓜生 正代



よろしくお願ひ致します。

食育活動

とれたてトウモロコシ
美味しそ〜っ!



たわわに実ったトウモロコシ。広渡小学校の2年生が学校近くの畑で収穫を体験しました。

この畑は、広渡で農業を営む、前農業委員の辻恒實さんの畑で、子どもたちの食育のためには辻さんが愛情を持って育てたものです。収穫の前には、子どもたちも現任の農業委員と一緒に下草とりなどを体験し、食物を生産する大変さと喜びをしっかりと学習しました。



遠賀産の給食に 委員そろって舌鼓

遠賀町の給食センターで調理員が愛情注いで作られる給食は、その半分が遠賀町もしくは遠賀郡で獲れた農産物。遠賀町の子もたちが日ごろ食べているままをいただきます。見た目以上の美味しさに委員全員が完食。遠賀の農産物にあらためて自信を持ちました。



この日のメニューは、
コーンごはん、鶏肉のカレー焼き、
おひたし、春雨汁、牛乳

農業者年金に 加入しませんか?

引退後の安心した生活のために、農家みんなが助け合う農業者年金にあなただも加入しませんか? 詳しくは農業委員会事務局まで。

耕作放棄地対策

豊かな農地を取り戻せ!

近年、後継者不足などにより、年々と農地が減少する傾向が続いています。農業委員会ではこれを大きな課題とし、昨年十一月に農業委員会で荒廃農地の一斉調査を行いました。その結果、すでに農地の面影もなく、原野と化しているものも少なくなく、委員一同大きいため息をつく始末でした。これが続けば、日本人の胃袋を外国の食物で満たすことになり、国の力も徐々に衰えてきます。

このままではいけません。ぜひとも私たち農家みんなの手で荒れた農地を再生し、豊かな農地を取り戻しましょう。



農地のあっせんなどご相談のある方は、農業委員会事務局までご連絡ください。

がんばれ、女の子! フレッシュ応援団

老良の若妻は都会っ子 いろいろ高崎農園より



老良で農業を営む高崎洋介さん、香織さん夫妻は、農業を始めて6年目。米2町4反の他に各種野菜を栽培し、遠賀川駅の他4ヶ所の駅構内を中心に直売をしています。そもそもふたりは、当時の仕事場が近かったことが馴れ初めで、その仕事場は、なんと東京! 香織さんは、東京都葛飾区のご出身で、チャキヤキの江戸っ子。周りに農地などない都会で、町工場の娘として育ち、オクラの実がどうつくかさえもわからない「普通」の都会っ子でした。

一方、洋介さんは老良での田舎暮らしを恋しく思い、結婚を前に農業をはじめたいとの相談を香織さんにしたところ、「なんだか面白そう...」と香織さん。なんとおもしろい受入れ、ビルが建ち並ぶ都会から一転、田畑が広がる遠賀の土地にやってきました。最初は小さな畑を見て、「なんて広い土地だ!」とびっくりしたそうですが、今ではすっかり遠賀に馴染んだ様子。しかし、この5年間は苦労の連続だったようです。



自分のところの畑が分からず迷子になったり、出荷の時期の過酷な労働を強いられたり。さらには、小さな子どもを抱えて、家事に、育児に大奮闘。畑までベビーカーを引いて作業することもしばしばだったそうです。そして、余裕がなくなると夫婦げんか。本当に仲の良いふたりからは想像もつきませんが、真剣に向き合っているからこそなのでしょう。

現在は、お母さんの指導のもと両立を果たし、どうにか農業経営を続けています。お金と時間はまなまりませんが、香織さんは、お酒のあまり得意でない洋介さんを尻目に、子どもの成長を肴に家で晩酌を楽しんだり、ときには息

抜きに農家の若い嫁同士で飲みに出ます。香織さんはそんな女子会を、「男の人にはプライドがあつて聞けないことも、女の人同士何でも聞けて、農業の勉強になるんです。」と、いろんな意味で楽しんでいきます。

葛飾からやってきた「寅さんガール」は、持ち前の明るい性格とひまわりのような笑顔で、すっかり地域に馴染んでいるようです。まだまだだ駆け出し。「若い地域の宝」として、農家みんなで温かく見守っていきましよう。



遠賀町ブランド化事業が 全力で走り出しました!



赤しそジュースを飲んで笑顔の記者会見にのぞむ鈴木美穂選手

地産地消を合言葉に昨年からの取り組みでいるブランド米が、稲刈りと共に走り出しました。町民には遠賀町産の米を望む声が大きくなり、今年度ついに販売です。また、赤しそジュースも数々のイベントで大好評! 来年の販売を目指しています。

10月7・8日 新米フェア

ゆめタウン遠賀にあつまれ!



〈平成二十四年賃借料情報〉

- 遠賀町全域
- 現金の場合 (十アールあたり) 一万一千円
- 物納支給の場合 (十アールあたり) 玄米五十キログラム

《編集後記》

年をとっても元気なのは土いじりのお陰。農地を守ってきてくれた先祖に感謝の今日この頃です。

〈高崎〉

今回の取材でお会いした香織さんから逆に元気をもらって、また私も頑張ろうと奮起しました。

〈瓜生〉